

⑤いまま残るまちの不思議

内容	詳細
戦国時代までは現在の松原通が五条通という名称だった。	1590年に豊臣秀吉が方広寺大仏殿を建立した際、参道として、現在の五条通の位置から鴨川に架かる橋を移設。橋は大仏橋と呼ばれたが、やがて五条橋と改められ、通り名も五条通に変更された。 なお、牛若丸と弁慶は五条大橋で出会ったとされるが、この逸話が正しいとした場合、出会った場所は現在の松原橋ということになる。
寺町通の今の姿は豊臣秀吉の都市改造でできあがった	平安京時代の東京極大路が原型。豊臣秀吉の都市改造により、洛中に散在していた寺院を移転させたのがきっかけで「寺町」の名前がつけられた。移転した寺院の数は約80ヶ寺にもおよんだ。
高辻西洞院付近にある「永養寺町」の由来となった「永養寺」は寺町高辻に移転している。	豊臣秀吉の都市改造により、「本能寺」などの多くの寺院が寺町通に移転してしまっただが、寺院名が地名として元の位置の痕跡として残っており、「永養寺町」もそのひとつである。
東本願寺前の烏丸通が東に迂回しているのは、交通事故を防ぐためだった	京都市電烏丸線を建設するにあたり、当初東本願寺のすぐ東側を直線で走る予定であった。しかし親鸞聖人の大遠忌には多くの門信徒が集まることを踏まえ、市電との接触事故を防止する目的で、東本願寺が迂回のための土地と費用は寄付する条件で、東側に迂回することとなった。
東本願寺の北側には本圀寺という大きな寺院があった。	本圀寺は日蓮宗大本山で、1345年に鎌倉より六条堀川に移遷された。移転当時の敷地は広く、北は五条通、南は七条通、西は大宮通、東は堀川通まであったとされる。現在は山科区に移転。移転までは境内に釣りができるほどの大きな池があった 1969年に山科区御陵に移転し、跡地には京都東急ホテルや聞法会館等が建つ。
西大路通が八条通で少し西に迂回しているのは、若一神社の御神木の楠の伐採をさけるためだったらしい。	若一神社の御神木である楠は平清盛の手植えとされており、樹齢800年を超える大木である。 1934年に西大路通を開通させる際にも、御神木に畏敬の念を込めて伐採することはせず、道路のほうを迂回させることになったと伝えられている。
島原には大門だけではなく、最近まで西門も存在していたが事故により倒壊してしまった。	島原の入口は当初大門のみだったが、1733年に西門が設置された。その後何度回転と改築が繰り返されたが、1977年に自動車が衝突して全壊した。 その3年後には門柱のみが復元されたものの、1998年に再び自動車の衝突により倒壊してしまい、現在は跡地に石碑のみが残る。
淳風小学校の建物の石材には化石が残っている	—
淳風小学校の住所は醒泉学区だった（小学校の住所は校長室の場所で決まるらしい）	—
昭和30年代まで堀川通は七条通より南は狭い路地だった。	現在の堀川通は戦時中の建物疎開で発生した空地を利用して拡幅されたが、七条通より南は建物が残っており、国道1号線の整備に合わせて工事が行われた。その際に安寧小学校も堀川通の西側に移転した。
京都タワーの高さ131mは、設計当時の京都市の人口から決められたらしい。	京都タワーは1964年に完成したが、当時の京都市の人口である131万人に合わせたと言われている。
西洞院通は明治時代までは川が流れていて、その後は昭和中期まで路面電車が走っていた。	古くより西洞院川が流れており、染物や紙漉きに利用されていた。明治の中頃に暗渠化されて、その上に路面電車の線路が敷設された。現在、京都駅から北野天満宮への交通は50系統の市バスが役割を引き継いでいる。
旧成徳中学校は「軟式野球発祥の地」と言われている。	1919年に日本初といわれる軟式野球大会が成徳小学校（のちの成徳中学校）で開かれたことにちなむ。なお、旧成徳中学校の玄関脇には、バットを手にした少年の像が立っている。